

9/16 読売 夕刊

東教大(文学部)いぜん重症

大学側が登校生排除

けさ 一部学外で授業再開

一組が月乗りになつて授業がストップしている、紛争最重症の東京教育大文学部(入江勇紀明学部長)は十六日午前十時すぎ(現状では学生の入構は検閲が条件)とする大学側と「無差別の入構が教育者のたるべき措置」とする文学部の調整がつかないまま入構を拒否され、一部が学外で授業(オリエンテーション)を開始した。これより先、検閲を突破した学生約六十人が機動隊に排除され、学外では全学調系が無届けデモするなど暴発状態が続いた。文学部は学生が排除されたあとと大学側に抗議状を申し入れたが、検閲をめぐって両者の意見が調整される可能性は薄く、抗議隊に顔を突き合わせた教員同士の対立は一段と深刻になり、紛争収拾にはまだ時間がかかりそうだ。

この朝、東教大六層半キャンパスは緊張の渦に巻き込まれた。正門わき「無計画な授業再開が全学を脅かす」と学長告示。構内に待機する二百人の機動隊。閉ざされた正門の外を歩き回る文学部の修転反対派教員。「なぜ学内で授業を受けられないんだ。教員もいっしょに検閲を突破してほし」と叫ぶ者の声も。午前九時、各校を呼びかけられ、オリエンテーションを受け、約三千三百人の文学部学生、大学院生のうち約五百五十人が学校わきの聖町公園に集まった。約五十人が「学内で授業を受けよう」といながら検閲を突破して学内はいたが、待機中の機動隊が「不法入構である」と全員を学外へ押した。このあと入江学部長が「ひとまず混乱を避けるため学外」

から三月三十日まで全学期授業に当てる。全員を三月三十一日に卒業させるという。同大学文学部は筑波修転反対派の、検閲。大学側が二月末、機動隊を導入して封鎖を解除、検閲体制にはいったあと、検閲によって学生を差別することは教育者たるべき措置ではない」と声を出して抗議していた。



機動隊に排除され学外に出る東京教育大文学部学生たち(けさ9時25分)

十六日から始まった文学部の「オリエンテーション」について、大学当局は「授業でない」文学部は「授業である」と正反対の見解を示している。入江学部長は、これは四十四年度前期第一日のオリエンテーションに当たり「各学生は教室単位で問題の説明を受け、正常なときでもオリエンテーションは、授業の一環として認められていたので、当然授業日数に含められている」としている。大学側の見解は、正規の授業計画であれば、評議会が承認しなければならぬ、また、オリエンテーションは全学的なものなのに、この日は他学部の学生には通知されておらず、とても授業日数には加えられないという。文学部では、六月末移動前三十

19